

女性リーダー育成プログラム

4期生募集

2025年1月開講～6月まで(日程/全6か月)

詳しくはhpをご覧ください

内閣府は2030年までに女性リーダー比率30%を掲げています。しかし2023年度末で、その比率はわずか9.8%に留まっています（帝国データバンク調査）。働き続けたい女性は多いにも関わらず、管理職への登用が進まないのはなぜでしょうか？

「丸の内経営研究所」は、企業における女性リーダー候補生の能力を引き出し、もっと輝けるよう支援するために「女性リーダー育成事業」を行っており、本プログラムでは、「第4期生」の募集となります。



プログラム内容

- 女性だけの経営セミナー
女性ならではの課題を整理し、リーダーシップに必要な経営者目線の思考力を養います。
- 個別メンタリングとコーチング
経験豊富な専門家がサポートし、目標達成まで伴走します。
- ネットワークコミュニティの構築
参加者同士が学び合い、励まし合えるコミュニティを築きます。

日程と内容

第1部 ラーニング セッション

内容：女性管理職としての在り方、経営手法、リアルケーススタディ、行動計画 【1/30】
【2/13】【2/27】
期間：2025年1月30日～4月10日（3か月間）【3/13】【3/27】
日程：隔週木曜日14:00～17:00（全6回）【4/10】

第2部 メンタリングと コーチングサポート

内容：個別の行動目標サポート 【4/17】【4/24】
期間：2025年4月17日～6月26日 【5/22】【5/29】
日程：全6回（個別セッション含む）【6/19】【6/26】

定員

9名

受講料

540,000円（税抜き） 早割486,000円（税抜き）

会場

〒390-0875 長野県松本市城西1-3-30
丸の内ビジネス専門学校

申込は
こちらから



セミナーの参加申込期限は2025年1月8日までですが
12月24日までにお申込みいただくと早割が適用されます。

<https://www.marubi-institute.com>

女性リーダー育成プログラム

4期生募集

2025年1月開講～6月まで(日程/全6か月)

詳しくはhpをご覧ください

経営メンター



Kazushige Sehata

瀬畑 一茂

(丸の内経営研究所プログラム・ディレクター)

2018年より松本市移住
ドイツ総合化学企業・BASF元・副社長
県内外企業顧問・相談役
県内外企業向け役員・幹部研修企画・登壇
次世代経営者育成、事業承継支援
経営メンター

※ メンターとは・・・

仕事や人生において、後輩や部下に対して
アドバイスや助言をする役割の指導者

エグゼクティブコーチ



Sayuri Uchikawa

内川 小百合

(丸の内ビジネス専門学校長)

長野銀行社外取締役
キッセイ薬品工業社外取締役
アルピコホールディングス監査役
女性の活躍支援
女性のネットワーク構築
ビジネスコーチ・経営学博士

※ コーチとは・・・

課題やリソースを明らかにし、クライアントを
目的地(目標達成)まで連れて行ってくれる人

Kalmia (カルミア) とは



「優美な女性」「大きな希望」
「野心」という花言葉を持つカルミア。
本プログラム修了者のコミュニティ名です。
様々な業種・背景の仲間とともに日々の
努力を重ね、高い目標を目指す
素晴らしい仲間たちが集います。



Message 修了生の声

- ・プログラムに参加する前は、「女性だから」という理由も含め、どこかに限界を作り、「制約の中で決断し、なんとかすること＝経営」にかかわる覚悟が足りなかったんだと気づかされた。(キッセイ薬品工業 柳さん)
- ・リアルケーススタディを通し、視座を高めて考えたことにより、自分の考え方や、やりたいことの実現、またチャレンジできることも増え仕事にやりがいを感じることができると思った。(野村ユニソン 石吾さん)
- ・共通言語をもって様々な視点から情報交換ができる仲間は、成長と学びを継続すると言う点でとても重要。すでに管理職にある女性社員だけでなく、意欲のある社員に可能性を提示するという意味でプログラムの参加者は広く社内に募集してほしい。(キッセイコムテック 半戸さん)
- ・まずは「やってみよう」と言える自分自身の強みを見つけることができました。この研修に参加したことは、私にとって「転機」になったと思います。とてもとても、楽しい研修でした。(アルピコホテルズ 松澤さん)
- ・知識だけではなく、まず色々な結果を想定しながら行動に移すことで、最悪のケースにも対応できるようになる。その為に常に目標を置き、そこに向かっていくつかのパターンを設定し修正を繰り返す事を学びました。(長野銀行 尾臺さん)
- ・組織を良くするためにどうするかということを考える中で、ただ声を出すだけではなく、仕組みを考え変えていくことを考えたいという思考が出てきた。それぞれの人の行動特性を考え、それに合わせた声かけや対応をしていくことが必要であることが学べた。(八十二銀行 鈴木さん)
- ・日頃考えたこともなかった「経営者」の視点で物事を考えることができた。仕事上の課題とビジョンから、そのギャップを埋めていくような施策を考える癖をつけることができた。(信濃毎日新聞 山崎さん)
- ・DEI推進が求められる中でも県内で働く女性に会う機会は少ないです。このプログラムでは意欲的な仲間と出会い、会社や自身が抱える問題の本質や解決策を、視座を高めて徹底的に学べます。頑張りたいという思いがあれば、会社規模や年齢を問わず参加できます。この「カルミア」の輪がさらに広がることを期待しております。(ミールケア 郷道さん)
- ・「リアルケーススタディ」の取り組みが一番影響を受けました。受講者自身のもつ仕事上の課題に対して「経営者目線になり自分事として考える」ということを念頭に置き、グループで何度も話し合いを重ね、解決策をまとめました。仕事に対する考え方が変化したとともに、受講メンバーとの絆も深まったと感じています。(松本信用金庫 前田さん)

＜参加企業＞ キッセイ薬品工業・キッセイコムテック・長野銀行・八十二銀行・松本信用金庫・アルピコホールディング
信濃毎日新聞・ミールケア・野村ユニソン ほか

お問合せ先

丸の内経営研究所



〒390-0875 長野県松本市城西1-3-30

丸の内ビジネス専門学校内

電話 0263-32-5589(代)

FAX 0263-32-5595

メール office@marubi-institute.com

学校法人 秋桜会